

畳表のマダラ変退色の発生要因とその防止法

農業研究センター い業研究所 加工部

研究のねらい

消費地のホテルや料亭の大広間などに敷込まれている畳の表面に、時として、マダラ状の退色が発生する。消費地では、これを産地の生産過程に原因があるとしており熊本畳表のイメージダウンともなっている。

それで、熊本畳表の信用をたかめるため、その発生要因とその防止法を明らかにした。

研究の成果

1. マダラ変退色発生の要因

- (1) マダラ変退色を引き起こす直接の原因は、畳に飲み物(水・ビール・酒・炭酸飲料など)をこぼし、そのまま放置するためである。
- (2) 使用禁止とされている数種類の着色剤の中でも、青味のある着色剤を使用した畳表では、マダラ変退色(シミ)が強く現れる。
- (3) 熊本の推奨染土で染めても、原草を黒色袋に保管した畳表では、マダラ変退色の発生が強く現れる。

2. マダラ変退色の防止法

- (1) 着色剤や添加剤など青味を強調するものは、一斉使用しない。
- (2) 推奨染土のような青味のある染土でも、白色系の染土を使用することで、マダラ変退色の発生を最小限に抑えることができる。
- (3) 宴会場などの飲み物がこぼれやすい場所に畳表を供給する場合(卸屋)は、青味の薄いものを供給する。
- (4) 原草を保管する黒ビニールの使用を避ける。
- (5) 畳に飲み物をこぼした場合、それを直ちに拭き取ればマダラ変退色は発生しない。

3. 今後の対応

現在の推奨染土と白色系染土との混用並びに黒ビニールの廃止は、マダラ変退色防止の上からは有望であるが、色調統一の面から各関係機関との協議が必要である。

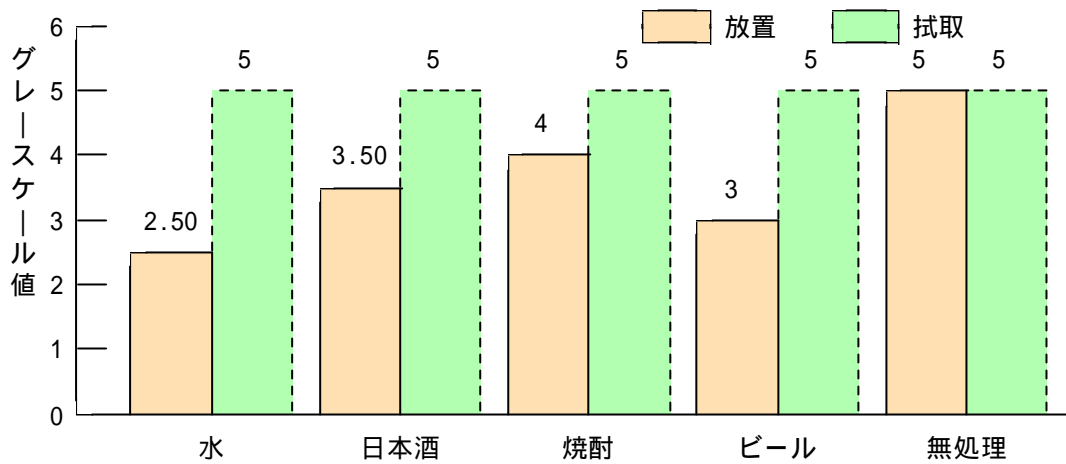


図1 処理飲料の種類と斑変退色の発生程度
グレースケール値の低いものが変退色が大きい。

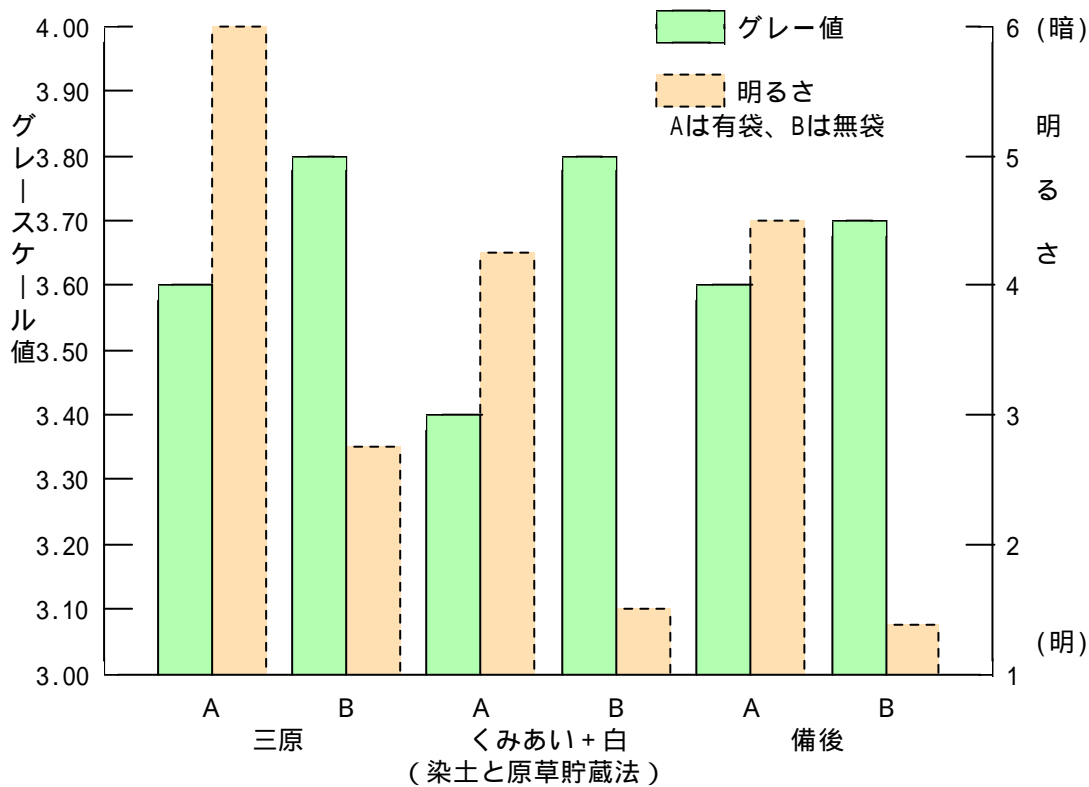


図2 染土及び原草貯蔵法と斑変退色の発生程度
原草を袋に入れたもの(有袋)は暗く変退色の発生も大きい。